

130年の歴史を基に 「社会知性の開発」と 「知の発信」が使命

専修大学 学長 日高義博

取材・文／堀水潤 撮影／渡辺まこと



【学長プロフィール】1948年生まれ。70年専修大学法学部卒業、75年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。専修大学法学部教授、法学部長などを経て2004年より現職。06年学校法人専修大学理事長。法学博士。専門は刑法学。

【大学プロフィール】1880年専修学校として創立。経済、法、経営、商、文、ネットワーク情報学部の6学部体制。文学部を大幅に改組した新学部の設置（2010年度）を検討中。同一法人に石巻専修大学、専修大学北海道短期大学がある。

本学は、日本の近代化を担うべく米国に留学した4人の若き先達によって、経済や法律を日本語で教える学校として創立されました。「様々な支援を受けて学んだ知見を広く社会に還元したい」という思いにかられたことでした。そうやって誕生した本学は今年創立130年を迎えます。ただ残念なことに、その歴史が一般に知られているとは言えません。私は、大学創立の背景や建学の精神について、また「大学の核は何か」「社会に有為な人材とは何か」などを、学内外にきちんと提示する必要があると強く感じています。

これからの時代に求められるのは、社会で生じる諸問題の原因を見極め、どう解決すべきか考えられる力です。また豊かな人間性や倫理観です。私はこれらに「社会知性」という言葉を当てはめました。社会知性を身につけた若者が学びを社会に還元することこそ建学の精神の具現化であり、そのとき初めて本学を卒業するのだと考えます。

問題は「社会知性の開発」をいかに大学の中で具体化していくかです。一つの試みとして今年度から「大学史の中における専修大学」という講義を設け、私も3時間語りました。不安はありましたが

私語や居眠りをする学生は二人としていませんでした。創立者の思いや大学の歴史を知ること、自分たちに課せられたミッションを認識してくれたとすれば喜ばしいことです。

大学の核となる研究力を強化し「知の発信」をしていくことも重要です。研究力なくして教育はありえません。たとえば文部科学省のオープン・リサーチ・センター整備事業では「古代東アジア世界史と留学生」など5件の選定を受け、大きな成果を収めています。

教育にも注力しています。キャリア教育や高大連携事業ほか、初年次から行う少人数ゼミや大学での学び方を解説したハンドブックの配布など早い時期から導入教育も取り入れてきました。

同時に教える側の意識向上も求められます。教員が互いの授業を見学するほか、学生による授業評価も実施しています。法学部などは質問項目の作成まで学生が行うのです。学生の目はシビアですが信頼に足るものです。教員は真摯に受けとめなくてはなりません。

大学の役目は、学生の可能性を広げ、人生の羅針盤を見つける手伝いをする。様々な学問や人間に触れ、これを見つけてほしいと願っています。